

平成 29 年 6 月 14 日

各位

会社名 株式会社ソケット

代表者名 代表取締役社長 浦部 浩司

(証券コード：3634)

ソケット、連続ドラマの視聴率予測シリーズ第 2 回レポートを公開
～ 過去 14 年間の連続ドラマを分析、ランキング傾向紹介と前回予測途中経過 正解率 50% ～

株式会社ソケット（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：浦部浩司、以下「ソケット」）は、前回公開した、ソケット感情分析エンジン（特許出願中）を利用した今期春ドラマの視聴率を予測したレポートに続き、前回構築した予測モデルでの視聴率予測結果の答え合わせを行った第 2 回となるレポートを公開いたしました。さらにレポート内では、結果を元に誤差原因を分析、要因に対する予測モデルのチューニングや、約 14 年間の連続ドラマに関するランキングや傾向などを紹介しています。

ソケットでは、音楽、映像、書籍をはじめとしたエンターテインメントに関する、商品開発・調達、マーケティング支援に向けた実用化を目指しております。

（※）MSDB（メディアサービス・データベース）とは、ソケットが開発した音楽、映像、書籍、放送、人物、施設、一般商品情報などを体系的かつ特徴情報を詳細に分類したデータベースであり、人の感性や感情を捕捉した「感性メタデータ」をキーとしたプロファイリング、アナリティクス、パーソナライズ、レコメンド、マーケティングサービスを実現します。

2017 年春ドラマ視聴率を予測する シリーズ第 2 回

さて、前回公開した 2017 年春ドラマ最終回視聴率予測の前段で、9 週目視聴率がではじめましたので、答え合わせとともに、発生した誤差とその原因解明、そして予測モデルのチューニングを行いたいと思います。

その前に、前回詳しくご紹介できなかった、対象期間のデータ集計結果サマリーをまずはご紹介できればと思います。

約 14 年間の連続ドラマサマリー

まず、前回ご説明しましたが、今回の対象をおさらいしておきます。

■2003 年 1 月期～2017 年 4 月期までの地上波プライムタイム（19 時～22 時台）全国ネットの民放 4 局（日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日）の連続ドラマ

■上記に付随する、放送曜日・時間帯、ドラマジャンル、各話視聴率、平均視聴率、主演、出演者、プロデューサー・監督・脚本などの付帯情報全般、あらすじデータ

■MSDB より抽出した上記データのうち、ドラマあらすじから感情分析エンジンで感情スコア値を算出

2003 年から今年 2017 年までを 5 年ごとに区切り、今回MSDBから抽出したメタ情報、付帯情報と、視聴率推移とで今回は「俳優」「ドラマジャンル」「原作者」の 3 つの側面からの集計結果をご紹介します。

（1）俳優×視聴率

最初は「俳優」軸です。まずは主役回数ランキング上位をだしました。

主役回数ランキングTOP10													
順位	主役俳優	主役回数	時期別内訳			テレビ局別内訳				季節別内訳			
			2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	春	夏	秋	冬
1	米倉涼子	17	7	6	4	1	3	3	10	1	4	8	4
2	観月ありさ	15	6	5	4	5	3	5	2	4	4	4	3
2	天海祐希	15	6	5	4	4	1	8	2	8	3	2	2
4	仲間由紀恵	14	6	6	2	3	3	5	3	2	2	4	6
5	木村拓哉	13	4	5	4	0	6	6	1	5	1	3	4
6	草彅剛	12	4	4	4	0	2	9	1	3	1	2	6
6	上戸彩	12	7	4	1	1	1	6	4	5	4	2	1
8	唐沢寿明	10	3	3	4	1	3	6	0	2	2	3	3
8	長瀬智也	10	5	2	3	4	4	2	0	2	3	2	3
10	亀梨和也	9	2	4	3	8	1	0	0	1	0	4	4
10	深田恭子	9	4	3	2	1	4	1	3	1	3	3	2
10	竹野内豊	9	4	3	2	0	4	3	2	2	2	4	1

2003 年以降、14 年間の主役回数トップは堂々、米倉涼子で、次いで観月ありさ、そして、3 位は天海祐希でした。上位 3 名は時期ごとで見ても全タームまんべんなく主役を演じており、安定感があります。米倉涼子に関しては、テレ朝「ドクターX～外科医・大門未知子～」のヒット、そしてシリーズ化の影響でテレビ局別の内訳では圧倒的にテレ朝主演数が多く、

また本シリーズは毎年秋クールでの放送の影響で秋の主演回数が突出していました。観月ありさは26年連続、現放送中の2017年は4月期で通算30回目となる連ドラ主演が話題となりましたが、その通り、季節別でみてもきれいに数字が並んでいます。理想の上司ランキングで上位の天海祐希は、新生活の時期となる春に「BOSS」「離婚弁護士」をはじめとした主演ドラマの回数が多く「上司」としての印象が強い結果を裏付けていました。

そして、お次は主役以外での出演回数ランキング結果がこちらです。

出演回数ランキングTOP10													
順位	出演俳優	出演回数	時期別内訳			テレビ局別内訳				季節別内訳			
			2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	春	夏	秋	冬
1	大杉漣	40	14	15	11	7	7	16	10	10	11	5	14
2	小日向文世	37	13	13	10	5	12	15	4	11	9	9	7
3	佐々木蔵之介	34	13	9	4	4	6	15	1	6	7	5	8
4	沢村一樹	28	8	7	3	7	6	5	0	1	6	5	6
4	滝沢沙織	28	13	9	5	1	5	12	9	7	7	5	8
6	杉本哲太	26	5	12	8	3	9	10	3	10	7	2	6
7	松重豊	25	6	11	8	5	8	10	2	4	8	5	8
7	渡辺いっけい	25	9	10	6	5	1	8	11	8	4	8	5
9	佐藤二朗	24	6	11	7	5	8	9	2	7	8	3	6
10	光石研	22	1	10	11	7	10	4	1	5	6	6	5
10	北村一輝	22	10	4	4	6	4	7	1	6	3	7	2

大杉漣、小日向文世、納得の顔ぶれです。少し意外だったのは、「ハンチョウ」シリーズで主演もつとめる佐々木蔵之介と、同じく「DOCTORS～最強の名医～」シリーズ主演の沢村一樹が3、4位だったことでしょうか。主役も脇役もいける俳優ということですね。他に特徴的なところとしては、出演回数トップの大杉漣は「秋に休む?!」、また、主役以外での佐々木蔵之介は「フジでよくみられる」、渡辺いっけいは「割とテレ朝俳優」、光石研は「比較的TBS俳優」といえそうな出演回数内訳でした。

そして、最後に、対象期間約14年間での主演・助演俳優の平均視聴率の高いランキングを参考にご紹介しておきます。

俳優 × 視聴率														
主演 視聴率ランキング										助演 視聴率ランキング				
1-15位					16-30位					1-15位				
順位	主演	回数	平均視聴率	最終回視聴率	順位	主演	回数	平均視聴率	最終回視聴率	順位	助演	回数	平均視聴率	最終回視聴率
1	木村拓哉	13	20.1	20.8	16	山下智久	7	13.8	14.3	1	戸田恵梨香	18	15.0	15.8
2	松嶋菜々子	3	16.9	21.9	17	二宮和也	6	13.7	15.5	2	瑛太	17	14.4	17.1
3	福山雅治	3	16.8	16.0	18	杏	4	13.7	15.6	3	稲森いずみ	18	13.9	15.5
4	井上真央	4	16.5	18.3	19	松本潤	6	13.6	14.7	4	藤木直人	30	13.2	14.0
5	堺雅人	6	15.8	18.6	20	織田裕二	6	13.4	13.0	5	泉谷しげる	18	13.1	14.1
6	中居正広	3	15.3	16.5	21	唐沢寿明	10	13.3	14.3	6	宇梶剛士	16	12.4	13.4
7	米倉涼子	17	14.6	16.0	22	稲垣吾郎	3	13.2	13.2	7	片瀬那奈	15	11.9	12.4
8	内野聖陽	4	14.6	16.3	23	仲間由紀恵	14	13.2	13.2	8	谷原章介	29	11.9	12.4
9	阿部寛	8	14.5	16.5	24	小栗旬	7	13.1	10.9	9	吹越満	16	11.8	13.1
10	篠原涼子	7	14.4	16.6	25	山田孝之	6	13.1	14.8	10	山口紗弥加	21	11.5	12.2
11	伊東美咲	4	14.3	15.9	26	綾瀬はるか	4	13.0	14.0	11	大杉漣	40	11.1	12.3
12	草刈剛	12	14.2	15.3	27	香取慎吾	8	12.9	14.2	12	尾美としのり	20	11.1	12.1
13	妻夫木聡	4	14.1	15.3	28	竹内結子	4	12.6	12.4	13	市毛良枝	14	10.7	11.6
14	稲森いずみ	3	14.0	15.6	29	大野智	6	12.5	13.6	14	濱田マリ	21	10.4	10.7
15	江口洋介	8	13.9	14.6	30	菅野美穂	8	12.4	13.8	15	田中哲司	22	9.8	10.3

(2) ジャンル×視聴率

次に、MSDBのジャンルデータを元に色々な角度から見てみました。

こちらは、今回対象期間のジャンル別本数ランキングTOP5です。

ドラマジャンル別本数ランキングTOP5													
順位	ジャンル	本数	時期別内訳			テレビ局別内訳				季節別内訳			
			2003 - 2007	2008 - 2012	2013 - 2017	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	春	夏	秋	冬
1	恋愛ドラマ	88	32	25	31	10	23	52	3	25	25	16	22
2	刑事ドラマ	81	8	34	39	9	24	19	29	35	14	11	21
3	ヒューマンドラマ	71	27	23	21	20	20	29	2	13	18	21	19
4	ホームドラマ	63	30	12	21	8	26	20	9	20	15	17	11
5	ビジネスドラマ	62	31	14	17	13	16	20	13	15	16	14	17

個人的に恋愛ドラマが減って、刑事ドラマが増えた印象をもっていました。恋愛ドラマの本数は全3タームでほぼ増減ありませんでした。刑事ドラマは2008-2012年の時期に一気に増えています。また、面白かったのはテレビ局別の本数内訳です。恋愛ドラマは圧倒的にフジが多く、テレ朝は刑事ドラマの割合が非常に多い結果となっていました。こちらさらに掘り下げてみたところ、テレ朝では、刑事ドラマ代表作ともいえる「相棒」を含めて、シーズン2、パート2という形で別クールで2回以上放送された刑事ドラマがなんと7本もありました（相棒、緊急取調室、警視庁捜査一課9係、臨場、遺留捜査、富豪刑事、刑事7人）。

対象的に日テレのシリーズ化された刑事ドラマは0本で、TBSでは、「ATARU」「MOZU」「SPEC」など、映画化された刑事ドラマが特徴的でした。

そして、肝心の視聴率上位のジャンルはこちらです。

ジャンル × 視聴率											
2003 - 2007				2008 - 2012				2013 - 2017			
ジャンル	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率	ジャンル	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率	ジャンル	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率
歴史	20.0	20.1	18.8	政治	17.0	19.2	15.6	検事	22.9	26.5	21.3
医療	17.4	17.2	15.9	医療ミステリー	18.1	14.3	14.9	経済	25.4	15.4	18.1
恋愛	15.5	17.0	14.6	経済	14.4	16.5	13.7	医療	14.7	14.5	13.4
コメディ	13.8	16.6	14.3	医療	14.6	15.8	13.6	弁護士	13.5	14.2	13.1
学園	15.8	15.2	13.7	刑事	14.0	15.3	13.4	医療ミステリー	11.5	12.9	11.4
ホーム	13.4	15.4	13.1	青春	15.0	13.4	13.3	恋愛	11.4	11.5	10.6
ミステリー	13.3	13.5	12.9	ヒューマン	13.7	13.8	12.1	コメディ	10.0	13.4	10.4
ビジネス	13.4	15.4	12.8	ホーム	15.1	12.3	12.1	ミステリー	10.0	12.5	10.3
青春	14.6	15.5	12.7	恋愛	12.7	13.9	12.0	空港	10.8	12.4	10.2
ヒューマン	14.1	14.6	12.6	時代劇	11.8	12.6	11.8	SF	9.0	13.3	9.9

どのタームも「医療」は安定して視聴率を稼いでいるようです。月9とは切っても切り離せない「恋愛ドラマ」は以前に比べ低迷中。恋愛ドラマ自体は減っていないものの、視聴率自体が稼げていないという結果が。録画派や見逃し配信視聴派を除いた、リアルタイム視聴層に特化して言えば、いわゆる「恋愛もの」より、検事、経済、弁護士などを背景とした骨太なもの、もしくは爽快さが受け入れられているようです。これは、医療、刑事、弁護士などの人気ドラマが続々シリーズ化しているのを考えると納得がいきますね。

さらにジャンル+曜日で平均視聴率を規格化してみたところこのような結果となりました。

ドラマジャンル×曜日 平均視聴率規格化結果																								
順位	ジャンル	本数	2003 - 2007							2008 - 2012							2013 - 2017							
			日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
1	恋愛ドラマ	88	-0.19	0.68	0.69	0.47	-1.13	1.89	-0.57	-0.24	0.02	0.02		-0.71	0.91	-1.72		-0.17	0.60	0.61	1.02	0.07	-0.99	
2	刑事ドラマ	81			-0.41	-0.50	-0.37	-0.38		0.91	-0.52	0.63	0.47	0.84	0.34	2.06		-0.83	0.78	-0.33	-0.25		0.37	
3	ヒューマンドラマ	71			-0.45	0.69	2.45	-0.30	0.18	0.36		-0.05	1.29	0.26	-1.25	0.26	-0.01	-0.34	-0.03	-0.23	-0.44	-0.69	-0.48	
4	ホームドラマ	63	-0.56	0.85	0.54	0.78	-0.03	-1.07	0.43	0.23			1.61	-0.96	0.41		-0.76		1.05	0.30	-0.46	-0.07	-1.44	
5	ビジネスドラマ	62	1.46	-0.11	-0.23	-0.66	-0.51	0.99	-0.51	-1.40	-1.06	-0.67	-1.55	0.08	-0.82		-0.09		-0.42	0.95	-1.41			

色が濃い方が視聴率が高めだった実績が出ていることになります。直近のタームでみると、恋愛ドラマは木曜、刑事ドラマ・ホームドラマは火曜、ビジネスドラマは水曜と相性がい感じでしょうか？ちなみに、直近のタームで一番数値が高く出たのは、本数で上位 5 に入っていなかった経済ドラマ×日曜日でした。ここのところヒット率が高い TBS の日 9 枠の実績が大きく影響していました。

(3) 原作者×視聴率

最後に、MSDB の脚本、プロデューサーなどのドラマ付帯情報の中から、視聴率との関係性の傾向がみられた原作者情報を元に視聴率上位を算出、その原作者情報をさらに MSDB 人物メタから「職業」をキーに紐づけた結果を、文字色別に分類しました。

原作者 × 視聴率												
2003 - 2007				2008 - 2012				2013 - 2017				
原作者	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率	原作者	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率	原作者	平均視聴率	初回視聴率	最終回視聴率	
森本梢子	28.0	26.5	32.5	村上もとか	20.2	20.1	25.7	東野圭吾	19.9	22.6	19.1	
一条ゆかり	25.2	28.0	28.8	森本梢子	18.1	19.7	19.7	藤村真理	16.0	14.3	16.9	
山崎豊人	23.9	25.3	28.4	有川浩	17.1	17.6	19.2	池井戸潤	16.0	14.7	19.8	
中野独人	21.2	18.3	25.5	道尾秀介	16.9	22.4	16.2	杉森久英	14.9	15.1	17.7	
神尾葉子	20.7	18.9	25.0	横山秀夫	16.0	16.0	16.2	石坂啓	14.8	16.7	19.0	
山田貴敏	20.6	21.4	24.1	貴志祐介	16.0	18.3	17.5	海野つなみ	14.6	10.2	20.8	
二ノ宮知子	18.9	18.2	21.7	小田ゆうあ	15.6	15.3	19.6	小森陽一	14.2	18.9	12.7	
寺沢大介	17.4	17.4	18.5	アサツディ・クイ	15.6	18.9	14.5	バク・インギョン	13.4	14.1	15.4	
中条比紗也	17.3	15.9	21.0	ひうらさとる	15.5	16.2	17.0	本間洋平	13.0	12.0	16.7	
東野圭吾	17.2	19.5	16.9	森田まさのり	15.0	12.2	19.5	有川浩	12.7	14.0	15.3	
さだまさし	17.1	21.9	20.8	伊藤実	14.8	13.2	18.6	石井あゆみ	12.5	15.8	10.7	
白岩玄	16.9	16.1	18.2	宮城理子	14.1	14.9	16.6	小田ゆうあ	12.4	15.5	12.9	
矢口史靖	16.8	20.6	22.8	藤子不二雄A	14.0	17.5	13.7	宮木あや子	12.4	12.9	12.3	
三田紀房	16.4	17.5	20.3	乃木坂太郎	14.0	16.4	15.2	永城せとな	12.3	14.4	13.7	
矢口史靖,ア	16.0	17.9	19.2	海堂尊	13.5	13.9	15.7	乃木坂太郎	12.1	11.6	12.7	
鈴木おさむ	16.0	19.9	15.7	夏緑,ちくやまきよし	13.5	16.0	12.5	相原実貴	11.7	12.6	12.7	
片山恭一	16.0	18.5	19.1	藤沢とおる	13.2	15.1	14.3	大塚つぐみ,小堀誠	11.6	16.9	14.1	
乃木坂太郎	16.0	17.6	17.5	渡瀬悠宇	13.2	13.1	13.6	鈴ノ木ユウ	11.5	12.4	12.3	
林真理子	15.7	15.5	17.5	アルコ	13.1	12.3	16.3	海堂尊	11.4	12.9	11.5	
黒丸	15.7	18.8	16.9	川瀬圭一	13.0	13.2	13.0	三上延	11.4	14.3	8.1	

※文字色： 漫画家 小説家 その他

オレンジ色が漫画家で、緑色が小説家、それ以外の職業は今回黒文字として丸めています。

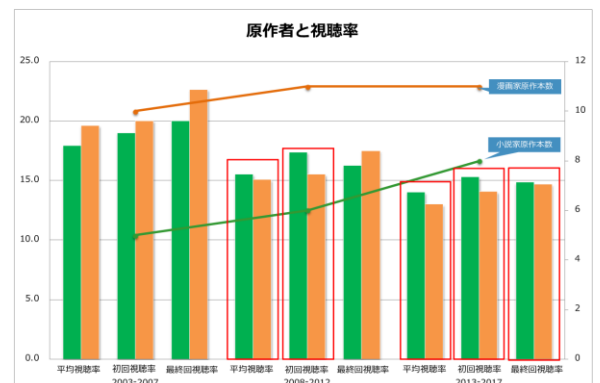
ちなみに、全対象ドラマの約 4 割弱がオリジナルではなく原作がありました。

ここで少し補足しておきますと、2003-2007 年期中で 1 位、2008-2012 年期中で 2 位だった森本梢子は「ごくせん」の原作者です。人気シリーズとなったので、2 タームに分けて視聴率上位となっています。ちなみに、2008-2012 年期中に 1 位の村上もとかは「JIN-仁-」の原作者となる漫画家の方です。

2013-2017 年期中の 1 位は言わずも知れた東野圭吾ですが、このタームでは「ガリレオ」1 本

の結果で 1 位となっています。そして、何といてもこの中で特筆すべきは、2013-2017 年
 期に、「半沢直樹」「下町ロケット」「花咲舞が黙ってない」「ルーズヴェルト・ゲーム」
 「ようこそ、わが家へ」「花咲舞が黙ってない（第 2 シリーズ）」と計 6 本ドラマ化
 された 3 位の池井戸潤でしょうか。1 本こけてしまうと視聴率平均に影響してしまう中、6
 本ドラマ化され視聴率平均 3 位というのは驚異的な結果といえます。実際、東野圭吾が、
 2008-2012 年期にランクインしていない理由は、このタームに「流星の絆」がヒットする
 などしながらも、計 4 本ドラマ化されたうち 2 本が平均視聴率 10%を大きく下回り、低迷
 してしまったことが要因ともいえます。

また、視聴率上位を占める原作者のうち、小説家が
 徐々に割合を増やしてきており、2003-2007 年
 期では、初回視聴率、最終回視聴率、平均視聴率ともに
 漫画家原作のほうが高かったものが、次タームでは、
 最終回視聴率以外で小説家が逆転、さらに
 2013-2017 年タームでは 3 つとも逆転し、社会問題
 や企業ドラマなどリアリティ追求型のドラマの台頭
 を裏付けています。



9 週目視聴率予測の答え合わせ

それでは、前回構築したプロトタイプ版の予測モデルで出した、9 週目の視聴率予測の答え
 合わせをしていきたいと思います。前回の予測モデル構築の際に、過去の視聴率データ実
 績に当てはめてみたところ、一般的な重回帰分析に比べ、誤差±1 ポイント以内に収まる
 精度となっていましたので、そちらを基準として、誤差±1 ポイント以上は不正解×、±0.6
 ポイント以上 1 ポイント未満はドロー△、0.5 ポイント以内は正解◎という形で判定したい
 と思います。

まだいくつか 9 週目の結果が出ていないものもありますが、結果は以下のようになりまし
 た。

2017年4月期春ドラマ 9週目視聴率予測結果						*2017/6/12現在						
放送局	放送曜日	放送時間	ドラマタイトル	ジャンル	主演	実績視聴率				予測視聴率	誤差	判定
						初回	2週目	3週目	9週目	9週目		
フジ	月	21:00	貴族探偵	ミステリー	相葉雅紀	11.8%	8.3%	9.1%	8.4%	8.8%	0.4	◎
フジ	火	21:00	CRISIS 公安機動捜査隊特捜班	刑事	小栗旬、西島秀俊	13.9%	11.2%	12.0%	10.3%	11.9%	1.6	×
TBS	火	22:00	あなたのことはそれほど	恋愛	波瑠、東出昌大	11.1%	9.0%	9.5%	6/13	12.1%		
テレ朝	水	21:00	警視庁捜査一課9係 season12	刑事	井ノ原快彦	11.5%	11.6%	13.9%	10.4%	12.6%	2.2	×
日テレ	水	22:00	母になる	ヒューマン	沢尻エリカ	10.6%	10.7%	9.3%	8.4%	10.3%	1.9	×
テレ朝	木	21:00	緊急取調室 (第2シリーズ)	刑事	天海祐希	17.9%	14.2%	12.4%	6/15	14.5%		
フジ	木	22:00	人は見た目が100パーセント	ビジネス	桐谷美玲	9.5%	6.4%	6.0%	5.7%	6.6%	0.9	△
TBS	金	22:00	リバーズ	サスペンス	藤原竜也	10.3%	6.3%	10.5%	10.4%	9.5%	0.9	△
日テレ	土	22:00	ボク、運命の人です。	恋愛	亀梨和也	12.0%	9.6%	9.2%	9.2%	8.7%	0.5	◎
TBS	日	21:00	小さな巨人	刑事	長谷川博己	13.7%	13.0%	11.7%	13.7%	13.3%	0.4	◎
フジ	日	21:00	櫻子さんの足下には死体が埋まっている	ミステリー	観月ありさ	6.9%	6.5%	5.7%	6/18	5.7%		
日テレ	日	22:00	フランケンシュタインの恋	サスペンス	綾野剛	11.2%	7.3%	8.4%	6/18	9.6%		

今のところ 3 勝 3 敗 2 引き分け、勝率としたら 5 割。覚悟はしていましたが、外れたものは割と誤差が大きめな結果となってしまっており、パーセンテージの数値を予測して当てる、ということの難しさ、壁の高さを実感します。まだまだ改善していくべき課題は多いことを認識するとともに、課題を解決していけば改善の余地があり、そこには可能性もあるということ！“緊蹙一番”改めて気持ちを引き締めてこのテーマに臨んでいきたいと思っています。

ということで、まずは精度アップに向けて、目の前の結果に向き合い、各ドラマの差分原因を分析しました。

その結果、外れた 3 つに関して共通でいえるのが、4 週目以降で大きく視聴率を下げている点でした。事前分析の際に、5 週目～8 週目の視聴率推移が重要ということが分かっていたのですが、今回の予測はあえて 3 週目までの視聴率実績を元にした予測モデルとしており、そこを予測しきれなかったドラマを外す結果となっています。他にも、スポーツの生中継の特番が同時時間帯に放映されるなど細々とした原因はいくつか仮説を立てることもできましたが、今回はまずはこの要素をどのように補うかにポイントを絞ってチューニングすることとしました。

諸々の要素を検討した結果、

- ・ **Twitter** コメントからの感情スコア
- ・ 過去ジャンル時間平均
- ・ 過去のシリーズものの平均視聴率からの伸び

この 3 点を盛り込むことにしました。

前回の予測モデルでは、1 週目から 3 週目の 1 話ごとの放映週前後のドラマタイトル・相性を含む **Tweet** 数の単純移動平均を用いた数式としていましたが、ドラマあらすじだけではなく、**Twitter** コメントも感情分析・スコア化することで、視聴者の感情推移を元とし、また、ジャンルやシリーズものなどの過去実績・傾向を加味することで、4 週目以降での視聴率の大幅低下も見込める要素を取り込みました。

【視聴率予測モデル プロトタイプ 第1回チューニング版】

$$x = \frac{P(m)+P(m+1)+P(m+2)}{3} \dots\dots\dots (1)$$

今回は、あるドラマの3週目までの視聴率を P とし、単純移動平均を x とする。
 m は1話目、 $m+1$ は2話目、 $m+2$ は3話目である。

あるドラマのTwitterの情報に関しては以下のように活用する。

$$T = \frac{Tw(m)+Tw(m+1)+Tw(m+2)}{3} \dots\dots\dots (2)$$

T は1週目から3週目のあるドラマの1話ごとの放映週前後のドラマタイトル・愛称を含む
 Tweet 数の単純移動平均である。

$$B = x/\text{過去(1作前)のドラマシリーズ平均視聴率} \dots\dots\dots (3)$$

以上の(1)(2)(3)を元にプロトタイプのモデルを記述する。

Y を求めることで各ドラマの最終視聴率を算出する。

過去のドラマシリーズがない番組に関しては(4)を適応し、該当するものは(5)を適応する。

$$Y_i = x_i * \left(1 - (\log(\text{過去のジャンル時間帯平均}) * \log(T_i)) \right) \\
* \frac{\sum_{i=1}^n (\text{感情スコア} P_{1i} / \text{感情スコア} N_{1i}) + (\text{感情スコア} P_{2i} / \text{感情スコア} N_{2i})}{x_i} \dots\dots\dots (4)$$

$$Y_i = x_i * B_i * \left(1 - (\log(\text{過去のジャンル時間帯平均}) * \log(T_i)) \right) \\
* \frac{\sum_{i=1}^n (\text{感情スコア} P_{1i} / \text{感情スコア} N_{1i}) + (\text{感情スコア} P_{2i} / \text{感情スコア} N_{2i})}{x_i} \dots\dots\dots (5)$$

感情スコア P = (幸福・愛情,嬉しい・楽しい,安らぎ・信頼,昂り・興味,希望)^T

感情スコア N = (不安・恐れ,怒り・苛立ち,哀しみ,嫌い・不愉快, 退屈・うんざり)^T

感情スコア P はポジティブな感情、感情スコア N はネガティブな感情をベクトル化したものである。 P_1 と N_1 はあらすじから算出したスコアであり、 P_2 と T_2 はTwitterにおける口コミ閲覧数-RT数上位5位のものから、感情スコアリングを行って合算を行ったものである。

それでは、チューニングした上記の予測モデルで改めて最終回視聴率の予測値を出してみたいと思います。

ちなみに「警視庁捜査一課 9 係 season12」は 9 週目で最終回を迎えてしまいましたので、今回のチューニング版予測対象からは省きたいと思います。

改めて予測した結果はこちらになります。

2017年4月期春ドラマ 最終回視聴率予測チューニング後										
放送局	放送曜日	放送時間	ドラマタイトル	ジャンル	主演	実績視聴率			予測視聴率	
						初回	2週目	3週目	前回予測値 最終回	チューニング後 最終回
フジ	月	21:00	～貴族探偵	ミステリー	相葉雅紀	11.8%	8.3%	9.1%	10.7%	9.3%
フジ	火	21:00	～CRISIS 公安機動捜査隊特捜班	刑事	小栗旬、西島秀俊	13.9%	11.2%	12.0%	13.2%	10.5%
TBS	火	22:00	～あなたのことはそれほど	恋愛	波瑠、東出昌大	11.1%	9.0%	9.5%	14.3%	16.8%
テレ朝	水	21:00	～警視庁捜査一課9係 season12	刑事	井ノ原快彦	14.5%	9.6%	10.8%	12.6%	9週目で終了
日テレ	水	22:00	～母になる	ヒューマン	沢尻エリカ	10.6%	10.7%	9.3%	12.2%	9.5%
テレ朝	木	21:00	～緊急取調室（第2シリーズ）	刑事	天海祐希	17.9%	14.2%	12.4%	17.4%	14.8%
フジ	木	22:00	～人は見た目が100パーセント	ビジネス	桐谷美玲	9.5%	6.4%	6.0%	7.6%	6.0%
TBS	金	22:00	～リバーズ	サスペンス	藤原竜也	10.3%	6.3%	10.5%	10.6%	10.8%
日テレ	土	22:00	～ボク、運命の人です。	恋愛	亀梨和也	12.0%	9.6%	9.2%	10.5%	8.9%
TBS	日	21:00	～小さな巨人	刑事	長谷川博己	13.7%	13.0%	11.7%	14.0%	14.2%
フジ	日	21:00	～櫻子の足下には死体が埋まっている	ミステリー	観月ありさ	6.9%	6.5%	5.7%	6.6%	5.2%
日テレ	日	22:00	～フランケンシュタインの恋	サスペンス	綾野剛	11.2%	7.3%	8.4%	9.6%	6.9%

過去のジャンル時間平均やシリーズものの平均視聴率からの伸びなどによる補正と、4 週目以降、特に重要となる 5 週目～8 週目の視聴率推移を、Twitter コメントからの感情スコアで視聴者の感情推移を読み解く…果たして今回のチューニング後の結果はどうなるでしょうか？

まとめ

現状ご紹介している内容のほかに、まだ活用しきれていないマイクロメタを含めたトピックモデルや、あらゆるメタ情報や感情スコア値の組み合わせなど、視聴率への影響度の高い要素の洗い出しもしていきたいと思っています。今までの事例でも、可視化できていない隠れた要素をあぶりだすことで新たな“気づき”を得られ、新たな切り口での分析が可能となりますので、さらなる精度アップに向けて非常に重要なステップと考えています。こちらは改めてご紹介したいと思います。

このほか、視聴者が後でゆっくり「録画視聴」するか、感情が突き動かされて「リアルタイム視聴」するのか、判断基準や感情・熱の違いなどを感情スコアなどからもう少し紐解いていきたいと思っています。

また、選挙やスポーツなどの特番や生中継、予期せぬイベント発生時のリスク予測の対応も、人の感情、感情による行動をデータから理解できればさらに有効になってくると思われます。

今週から来週にかけて最終回を迎える今期春ドラマ、チューニング後最終回視聴率予測結果は果たしてどうなるか?! 今回の予測結果の答え合わせについて、また次回お届けしたいと思います。

「ソケットズレポート」の記事のご利用、また共同研究などに関するご相談はこちらのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

<http://www.sockets.co.jp/inquiry/contact/policy.html>

●公開日

平成 29 年 6 月 14 日 (水)

●ソケットズレポート

2017 年春ドラマ視聴率を予測する シリーズ第 2 回

http://www.sockets.co.jp/kansei/kansei_report04.html

株式会社ソケットズ : (<http://www.sockets.co.jp/>)

株式会社ソケットズは、平成 12 年 6 月に設立された「人の気持ちをつなぐ」という事業目的を持ったデータベースサービス会社です。現在、KDDI 株式会社、株式会社NTTドコモ、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社などへの音楽や映像、書籍などを中心とした検索・レコメンド・ストリーミング・データ提供・アナリティクスなどのデータ関連サービスを行っております。

本リリースに関するお問い合わせ先：

株式会社ソケットズ

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル 3F

担当：コーポレート本部 小田嶋

Tel：03-5785-5518 Fax：03-5785-5517

E-mail：ir@sockets.co.jp

以上